情報理工学実験レポート

赤文字はコメントである。実際に提出するレポートでは削除し、適切に修正して提出すること。

実験テーマ名：XXXに関する実験

学生証番号　1234567

氏名　荒木 俊馬

提出日　2021年4月1日

要約

ここから表紙（このページ）の末尾までに、要約を書くこと。要約はレポートの全体を簡潔にまとめたものである。次のように書くこと。

1. 表紙のページ内に収まる範囲で書くこと。
2. 実験の「目的・目標」、「方法・手段」、「結果・成果」を記述すること。特に「結果・成果」が重要である。
3. 要約には図表を含まず、文章だけを記述すること。

次のページから始まる目次・本文は以下のように書くこと。

1. 見出し部分（「１．実験の目的」など）はゴシックフォント（MSゴシックなど）で、12ポイントで書くこと。見出し以外の本文は明朝体フォント（MS明朝など）で、11ポイントで書くこと。
2. 図を入れる場合、図の下に図番号と説明文を入れること。表を入れる場合、表の上に表番号と説明文を入れること。グラフや写真など、表以外のものは全て図とすること。

このフォーマットは参考のために提供しているものであり、実際に提出するレポートがこのフォーマットと少しぐらい異なっていても構わない。Wordを使わなくても良い。ただし、あまりに体裁の悪いレポートにならないように注意すること。

目次

[1. 実験の目的 1](#_Toc17727090)

[2. 実験の方法 1](#_Toc17727091)

[2.1 説明する項目ごとに節を分ける 1](#_Toc17727092)

[2.1 2つ目の説明 1](#_Toc17727093)

[3. 実験の結果 1](#_Toc17727094)

[3.1説明する項目ごとに節を分ける 1](#_Toc17727095)

[3.2 2つ目の説明 1](#_Toc17727096)

[4. 結論 1](#_Toc17727097)

[参考文献 1](#_Toc17727098)

[付録 1](#_Toc17727099)

上の目次はWordの「目次を作成する」という機能を使って、本文中の見出し（章番号や節番号をつけた行）から自動的に作成している。この機能を利用するのであれば、Office 365 Wordのヘルプやgoogleの検索結果などを参考にして修得すること。「目次を作成する」機能を使わずに目次を書いても良い（短いレポートであれば目次は不要であろう）。

個々の実験によって、実験レポートの章立てや見出し・タイトルは異なる。実験の内容とレポートの読みやすさを考慮して決めること。

情報理工学部では、WordやExcel、PowerPointなど、一般的な文書作成ツールや表計算ソフト、プレゼンツールの使い方を丁寧に教える授業はない。これらについては、自分で身につける必要がある。

# 1. 実験の目的

実験の目的を自分の言葉で書く。一般には、実験の概要を述べ、「この実験によって…を学習することが目的である。」のようになる。

# 2. 実験の方法

実験装置、実験手順、実験条件、測定原理、などについて記述する。

2.1 説明する項目ごとに節を分ける

記述内容が多岐にわたる場合には、説明する項目ごとに節を分ける。

2.1 2つ目の説明

# 3. 実験の結果

実験結果を示す。多くの場合、測定した数値やデータを提示し、それらを説明する。表や図（特にグラフ）を有効に使うこと。測定値や図表を提示するだけではなく、それらの意味を本文中で説明すること。得たデータの意味について考察し、検討を加える。情報理工学実験の場合、実験で得るデータは、学生によらず、同じような結果になる。しかし、考察や検討の内容は理解の程度によって異なる。

3.1説明する項目ごとに節を分ける

記述内容が多岐にわたる場合には、説明する項目ごとに節を分ける．

3.2 2つ目の説明

# 4. 結論

結果や考察の中で重要なものをまとめる。

# 参考文献

レポートの本文中のそれぞれの部分で参考にした文献の著者名・文献の題名・雑誌名巻号・発行元・ページ・発行年や、WebサイトのURLを、下記のように番号をつけて書き並べる。そして、本文中の参考にした箇所に文献の番号を示す（「…とは…のことである[1]。」のように）

[1] 著者名，「文献のタイトル」，書籍の名称，pp.123-134，2019年．

[2] 京都産業大学のホームページ，https://www.kyoto-su.ac.jp

付録

本文につけるには冗長なデータなどがあれば付録にする。

この文書の赤い文字は説明のための文章である。実際のレポートでは削除すること．章・節のタイトルはレポートの内容に合わせて変更すること。

―――ここまでが実験レポートのフォーマット―――